

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		土壌の分析による古代メソアメリカ農耕と土地利用に関する研究			
研究テーマ (欧文) AZ		A Study on the Ancient Agriculture and the Land Use of Mesoamerica: An Approach from Soil Science.			
研究氏 代表 者	カナ CC	姓) イトウ	名) ノブユキ	研究期間 B	2007 ~ 2008 年
	漢字 CB	伊藤	伸幸	報告年度 YR	2009 年
	ローマ字 CZ	Ito	Nobuyuki	研究機関名	名古屋大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		名古屋大学大学院文学研究科・助教			
概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)					
<p>メソアメリカ研究では、都市を取巻く環境や生業活動が行われた環境利用に関する実証的な研究が少ない。また、都市の中心部分であるピラミッド神殿などの建造物や王墓の調査が主に行われてきており、経済的な基盤である農耕に関する実証的研究が遅れている。以上のことを考慮し、遺跡で検出される農耕若しくは耕作に関連する土壌の多元素分析から環境復元を試みた。</p> <p>イロパング火山による降下火山灰層の下より耕作土が検出されている。エル・サルバドルの首都サン・サルバドル近郊では都市開発に伴って、道路工事が行われている。この道路工事により露出された断面に火山灰層があり、更にその下には畝状の遺構が検出された。この畝状遺構は先古典期後期(紀元前 250-紀元後 250 年頃)若しくは古典期前期(紀元後 250-600 年)に相当する。この耕地を形成する土壌の分析から、栽培されていた植物や耕地の適性を解明している。土壌に含まれる安定炭素同位体分析によると、C4 作物がこの耕作土で栽培されていた可能性がある。</p> <p>一方、ロス・ナランホス遺跡はホンジュラス共和国のヨホア湖畔にある。ロス・ナランホス遺跡近くのヨホア湖の水深が浅い部分で、メキシコ盆地の湖で行われていたチナンパ農法(浮島農法)の可能性が考えられた。この湖でのやや浅くなっている部分で土壌を採集し分析資料とした。因みに、メキシコのチナンパ農法は、湖底の土をくみ上げ、敷き詰めた草の上のせることにより、耕地を作り出している。この作業を繰り返すと、これらの農地は湖に浮かぶ島のようなになる。このために浮島農法と呼ばれる。多元素分析の結果より、ここでも栽培植物があった可能性が考えられる。</p> <p>現在、より詳しく分析結果を解析しているところである。このより詳しい調査結果が出たときには、公表をしたいと考えている。</p>					
キーワード FA	畝状遺構	サン・サルバドル	ロス・ナランホス	安定炭素	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

